



上下水道局の応急対策

上下水道局では、災害に強い施設づくりを進め、断水時に市民7日分の飲料水を確保し、応急給水を行います。

応急給水所：広報車がお知らせします

応急給水は、被害状況に応じて下記の避難場所などで行います。
最寄の応急給水場所を確認しておきましょう。

- ・ 第一指定避難場所(市内70か所)
(地区・校区市民館)
- ・ 広域避難場所(市内7か所)
(豊橋公園、東田公園、牛川遊歩公園、向山緑地、
高師緑地、岩田運動公園、幸公園)



●小鷹野浄水場



●高山配水場

- 第一指定避難場所……………●
- 耐震性貯水槽……………◆
- マンホールトイレ……………

■ 災害に備えた施設

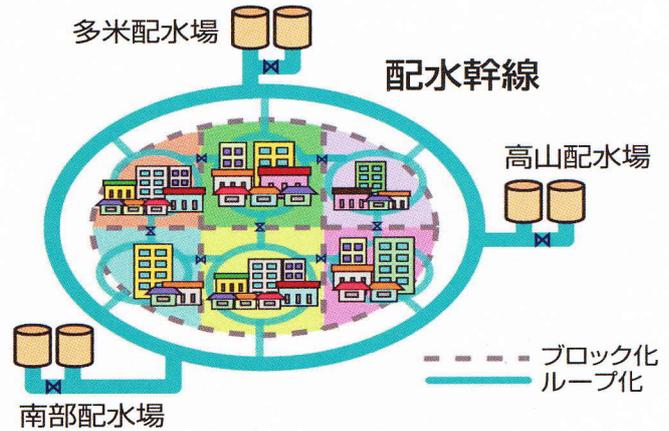
多米・高山・南部配水場には配水地が各2池あり、大きな地震が発生した場合、緊急遮断弁が作動し、市民7日分の安全な水を確保します。

また、浄水池の耐震化を平成22年度に行いました。



●完成した浄水池の外観

■ すみやかな復旧のために



災害発生後の早期復旧対策として、主要配水場間の幹線をループ化することにより、配水区域間の相互融通を図っています。

加えて、被害区域の特定化を図るための配水システムのブロック化を行い迅速な復旧作業が可能な配水管網を整備しています。

■ 飲料水兼用耐震性貯水槽って？

地震などで水道施設が損傷し、水道水の供給がストップした場合、消火用水と安全な飲料水を確保するため、飲料水兼用耐震性貯水槽は設置されています。

多くの避難民が予測される地域を主な対象として、計20基を設置しており、災害時に手動ポンプで手軽に飲料水をくみ出すことができます。



●応急給水訓練の様子



●耐震性貯水槽のイメージ

■ 災害時のための水備蓄対策 ～めやすは1人1日3リットル～

もし災害が発生したら…そんなときに役立つ「水備蓄対策」



1日1人3リットル 家族の人数

① 1人1日3リットルを目安に3日分備蓄

② 保存場所の確認

いざという時のために、日頃から家族会議などで、非常用の水道水容器の保管場所の確認や水の調達者等を決めておきましょう。

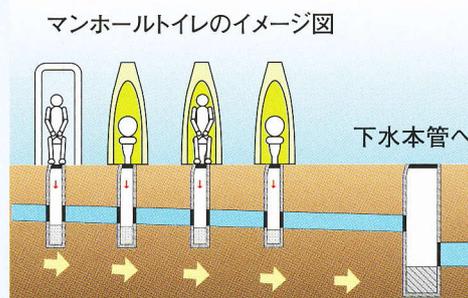
③ 風呂の残り湯の活用

お風呂の残り湯を流してしまわずに翌日まで貯めておくことで、万一の時に消火等として利用できます。

■ 震災時の下水道

下水道は、使用できるか確認してから使しましょう。トイレの問題も生活の中では大切なことです。東日本大震災を機に防災対策の一つとしてマンホールトイレが注目されました。

このトイレは、通常はマンホールの蓋が見えているのですが、災害時には蓋の一部を開いてトイレとして利用できます。



マンホールトイレのイメージ図



●実際のマンホールトイレ